ようこそ！夢の本棚へ

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代　表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

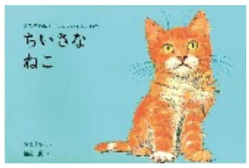
【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

「こどものとも」で育む豊かな心と生きる力⑩

～豊かな言葉を、日本語を子どもたちに伝えたい～

企画・表現等を総合的に考えて

◆『ちいさなねこ』は、石井桃子先生が書いてくださった絵本です。この絵本が出来たときに、「こどものとも」が〝産経児童出版文化賞大賞〟という前代未聞の賞をいただいたんです。それを非常に支持してくださったのが、羽仁節子先生だったんですね◆ですから、子どもの物語絵本ては、文章と絵との関係だけでなくって、本の形だとかいろんなことに、そして手を使って見るというようなこと、そういうことも全部含めて、企画を、表現を考えて行かなきゃなりません。



石井桃子さく/横内襄え
８６号/１９６３年５月号

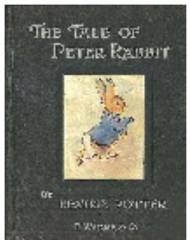
絵本は読み手のもの

◆そういう本を子どもが喜んだ時には、子どもの中に一番残るのは「読み手」なんです。絵本というのは「作者」のものではありません。こんなことを言っては作者に叱られますけど、絵本は全部「読み手」のものです◆私は大学生によく『ぐりとぐら』っていう絵本のことを聞きました。「あなた方、『ぐりとぐら』って絵本を知ってますか」って聞くとだいたい知ってくれます。「作者は誰ですか」って聞きますと、分からない人が相当いますよ。中には「中川李枝子さん」ってパッと答える学生もいますけど、もうほんとに「誰だったかなあ」って顔してる人も、考え込んでる人も相当います◆で、その次に私は、もう一つ質問します。「誰に読んでもらいました？」って聞きますと、全員答えられますよ。お母さんが圧倒的に多いです。幼稚園の先生や保育園の先生、文庫のおばさんや図書館の人、お父さんてのも出てきますけど、読んでくれた人のことをちゃんと覚えています。

なかがわりえこ/おおむあゆりこ
９３号/１９６３年１２月号

読み手と聞き手の間に橋を架ける

◆その物語が心の中に残ってる。これが絵本の意味なんです。絵本ては、「読み手」と「聞き手」の間にある見事な橋を架ける世界なんですが、そういう子どもたちが大人になりますと、自分が親になった時に、自分の子どもにまた絵本を読んでやる。心の中に残ってる本を読んでやるんですね◆ですから、百年間読まれている本があるでしょ。世界では『ピーターラビットのおはなし』。初版が１９０２年です。百年以上経ちました。絵本ては、五十年、百年と読まれるんです。『ピーターラビット』になりますと、ご先祖から子孫まで知ってるというお話です。よくあのビクトリア朝の英語を今でも直さないで読んでるねっていう感じが致します。



『ピーターラビットのおはなし』
初版本/１９０２年

豊かな言葉こそ生きる力

◆ですから、絵本というのは、人間の心に非常に関わりがあるんです。そして、人間の心をほんとに豊かにする。なぜ心が豊かになるか。言葉が豊かになるからです。素晴らしい言葉ってのは、ほんとに人間の気持ちを刺激して、人間の気持ちを生き生きとさせる。そこに喜びがある。これが生きる力ですから◆人間が生きていくのは言葉ですから。言葉があるから、人間は生きていくことが出来るんです。言葉が、生きる力なんです◆その生きる力の言葉が、今どんどん衰えて行ってるわけですから、今の子どもたちがどれほど生きる力を持っているかってことは、とても疑問です◆私が子どもの本を作ってるのは、「言葉を子どもたちに伝えたい」「日本語を伝えたい」ということ。それが一番奥底にあるだろうと思います。（おわり）

＊次号より新元号のもと、２０１０年（平成22）年10月に行われた「世界に絵本を求めて」の講演会より抜粋してお届けします。